

2013 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2013 年 5 月 15 日（水）～18 日（土）

午後：シンポジウム

第 4 日（5 月 18 日）

午前：口頭，ポスター

午後：公開気象講演会*，専門分科会

*事前申込制

2. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
<http://nyc.niye.go.jp/>

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 15 日）

午前：口頭，ポスター

午後：専門分科会

第 2 日（5 月 16 日）

午前：口頭，ポスター

午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（5 月 17 日）

午前：口頭，ポスター

5. シンポジウム

大会第 3 日（5 月 17 日）の午後に開催予定です。テーマは「変化する地球環境と気象学の役割」です。

6. 懇親会

大会第 2 日（5 月 16 日）の夕刻に、大会会場にて開催予定です。

7. 大会ウェブサイト【2013 年 1 月 8 日（火）開設予定】

本大会では、大会ウェブサイトを、2013 年 1 月 8 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.or.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規定」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2013 年 2 月 5 日（火）15 時（日本時間）
- ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご通知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(2月5日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2013年1月29日(火)必着
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿
 - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワードと、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
 - ③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項

参照)

送付先(電子メールの場合)：

kouenkikaku2013s@netsoc.jp

送付先(郵送の場合)：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。

一口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2013年度春季大会参加申込」と明記
- ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
- ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
- ④大会参加費金額
- ⑤懇親会費金額
- ⑥合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2013s@netsoc.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2013年4月2日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい(クレジットカード決済のみ)。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2013年3月26日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2013年度春季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別（聴講者）
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- ・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（た

だし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- ・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	3,500 円	4,000 円
学生	1,000 円	1,000 円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、一般の方の当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送

する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落

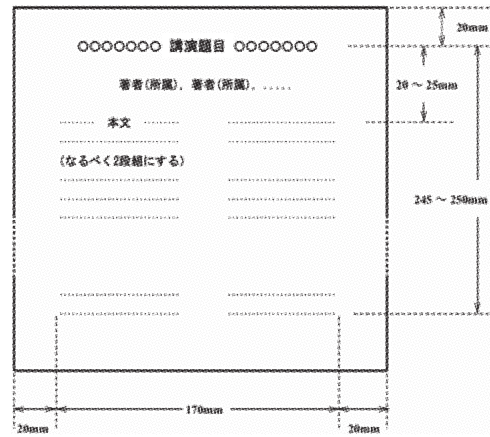
ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。
特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合
がありますので、予めご承知おき下さい。

4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。

ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総

計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日（5 月 15 日（水））及び大会第 4 日（5 月 18 日（土））の午後開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンピーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 2 月 5 日（火）、郵送申込は 1 月 29 日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンピーナーが大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・使用可能面積は縦150 cm×横180 cm（脚の高さ60cm）です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場

合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2013年度春季大会では下記の通り、9件の専門分科会が開かれます。

1. 「液体炭酸・ドライアイス・ヨウ化銀・散水人工降雨法の比較および今後の発展方向」

趣旨：人工降雨法として過去50年にわたって、ヨウ化銀・ドライアイス・散水法が推進されてきたが、10年ほど前から新しい液体炭酸法が開発されている。ヨウ化銀法とドライアイス法の従来法は、降水がある程度期待できるが、雨量が少なく、特別な場合（例えば北京オリンピック）を除いて、一般的には採算に合わない。一方、液体炭酸法は従来法より少なくとも10倍以上の効果があるとされるが、実験結果が少ない状況ではある。最近、液体炭酸法に関する実験結果が整ってきたので、他の方法とも比較検討し、将来展望を図り、世界

的な普及に結びつけることを期待している。

コンビーナー：真木太一（筑波大学農林技術センター）、守田治（福岡大学環境未来オフィス）、脇水健次（九州大学大学院農学研究院）

2. 「台風のデータ同化研究」

趣旨：データ同化は、観測データと数値シミュレーションを融合する科学的方法で、その応用によって予測可能性への理解を深めることができる。台風などの熱帯低気圧（台風等）は海洋上でそのライフサイクルのほとんどを送るが、海洋上には一般に観測データは少ないことが研究上の大きな困難となっている。一方、観測データには依存しない、数値モデルを使った研究も行われてきた。データ同化は数値モデル及び観測データの双方を生かすアプローチで、台風等の集中観測データを使

ったデータ同化研究が最近盛んに発表されている。また、2011-12年に日本に影響をもたらした台風により、台風研究への関心が高まっている。本専門分科会では、台風を対象を絞ったデータ同化関連研究を集め、台風の予測技術の向上、予測可能性研究や、プロセス解明に向けた研究へのデータ同化の有効性について、その現状及び将来展望について議論を深める。

コンビーナー：三好建正（メリーランド大学／理化学研究所）、和田章義（気象研究所）、沢田雅洋（東京大学）、國井勝（気象研究所）、山田広幸（琉球大学）

3. 「ポスト「京」に向けた気象・気候シミュレーションの展望」

趣旨：数値シミュレーションは、気象学、気候学において自然現象の科学的理解や予測における有用な手段として確立しており、高速計算機の発展がその基盤となってきました。現在、「京」に続く超高速計算機の議論が始まっており、われわれの分野で挑戦したい科学的課題は何か、それに向かってどのような研究が必要かを展望し、またどんな計算機アーキテクチャが望ましいかという発信をコミュニティとして行ってゆく必要があります。この分科会では、地球シミュレータや「京」の経験を踏まえ、しかし、もっと科学的にも夢のある立場から10年後の気象、気候、さらには地球システム計算の展望について議論したいと思います。素過程解像シミュレーション、データ同化についての議論も含めます。セッションは、いくつかの計算分野の現状と将来の展望を何人かの招待講演者に語って頂くと同時に、フロアや若手からの自由なご意見を吸い上げることができる形式で行いたいと考えています。

コンビーナー：河宮未知生（海洋研究開発機構）、木本昌秀（東大気海洋研究所）、佐藤正樹（東大気海洋研）、斉藤和雄（気象研究所）、三浦裕亮（東大理学系研究科）

4. 「気象庁 55 年長期再解析（JRA-55）～JRA-25 からの発展と日本における長期再解析の展望～」

趣旨：JRA-25 に続く長期再解析 JRA-55 の作成が進められている。JRA-55 では、4 次元変分法の導入

や予報モデルの様々な改良などにより JRA-25 から大幅な品質改善を行っている。また、対象期間も JRA-25 の 1979 年以降から、JRA-55 では 1958 年以降と大幅に延長し、過去半世紀以上の期間をカバーすることになった。これらの改善により、気候変動研究や数十年変動などをはじめとして、適用可能分野が飛躍的に拡大されることが期待される。また、過去の顕著現象の事例解析や再現実験などにも有効に利用できる。本分科会では、JRA-55 プロダクトを作成するに当たっての作成者側の工夫・苦労を紹介すると同時に、プロダクト特性の初期結果に関する研究・および関連分野の研究を広く募集し、今後の JRA-55 を利用した研究および日本における今後の長期再解析開発・活用の出発点としたい。

コンビーナー：釜堀弘隆（気象研究所）、原田やよい（気象庁気候情報課）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）

5. 「CMIP5 マルチモデルデータによる将来変化予測研究の展望」

趣旨：IPCC 第 5 次評価報告書のため、世界各機関から気候モデルによる現在気候および将来気候シナリオ実験の出力データの多くが CMIP5 マルチモデルデータとして集約されてきました。CMIP5 モデル群は、CMIP3 の時代に比較して、時間空間解像度の向上、物理過程の改良、アンサンブル実験数の増大などが図られているため、様々な角度の解析から、将来気候についてより精緻な情報の抽出が可能であると期待できます。本専門分科会では、CMIP5 マルチモデルデータと最新の観測データとを利用した気候および身近な気象のモデル再現性と将来変化予測に関する講演を募集します。特に、地球温暖化に伴いアジア域の四季における様々な現象がいかに変化するかについて議論の基礎となる研究発表を歓迎します。

コンビーナー：高薮縁（東京大学大気海洋研究所）、尾瀬智昭（気象研究所）、中村尚（東京大学先端科学技術研究所）、前田修平（気象庁気候情報課）

6. 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

趣旨：最先端の現業システムを持つ気象庁とそこで生まれる種々のデータを解析する研究者・機関と

の連携研究を推進するために、「気象研究コンソーシアム」が発足し、5年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データ、ハインドキャストデータなどの気象庁モデルの出力データのみならず、全球の二酸化炭素濃度分布データや海面水温解析値、気象衛星ラピッドスキャンデータなどの観測・解析データを有効活用し、最先端研究を推進するとともに、成果の社会還元促進に努めています。この専門分科会では、(1)数値予報の出力データを利用した研究、(2)気象庁の新しい観測・解析データを用いた研究、(3)これらと関連した数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究、などに関する講演を募集します。この分科会の趣旨に沿った講演であれば、コンソーシアムへの参加の如何にかかわらず、積極的なご応募をお願いします。

コンビーナー：余田成男（京都大学大学院理学研究科）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、藤田司（気象庁予報部数値予報課）

7. 「気候研究のための気象観測データベースの発展」

趣旨：地球温暖化をはじめとする気候変動の実態把握にとって、品質の高い観測データの確保が重要である。国内の気象官署やアメダスの地上観測データについては、気象庁で過去データのデジタルアーカイブが進められ、品質管理をした上で一般への公開が行われてきた。一方、科研費による区内観測データ等のデータレスキューが行われており、今後もさらに行政・研究・教育機関等による過去の分も含めた気象データの共有推進が望まれる。また、気候研究を行う上では、都市化や周辺環境が観測データに与える影響や、測器および観測方法の変更による観測の質的な変化を考慮することが重要との認識が、世界各国で深まっている。WMOでも観測環境の分類方法が提唱されており、今後はそれらの評価に不可欠な観測のメタデータについても整備していくことが求められている。本分科会では、地上気象観測を中心として気候研究に必要な観測の一次データに的を絞って、メタデータを含む観測データベースの発展・拡充を目指して、関連する研究成果の発表や情報交換を行いたい。

コンビーナー：藤部文昭（気象研究所）、松本淳（首都大学東京）、日下博幸（筑波大学計算科学研究センター）、飯塚悟（名古屋大学大学院環境学研究所）

8. 「エアロゾルの気候と大気環境への影響」

趣旨：自然起源および人為起源の大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）は、太陽放射を吸収・散乱し地球の放射収支に多大な影響を及ぼすと共に、雲凝結核として働くことにより雲の放射特性や降水過程あるいは雲量などに影響を及ぼすと考えられている。エアロゾルの気候と大気環境への影響は、エアロゾル形成に関わる大気化学・大気物質科学と、その放射・雲物理あるいは気象場への影響に関わる気象学・気候学との境界領域に位置する研究分野である。本専門分科会はまだ融合が不十分なこれら2つの研究分野の結びつきをより深めることを目的とし、それぞれの分野あるいは境界領域分野の研究における最新の知見を共有し重要となっている課題を明らかとするとともに、お互いの研究分野への要望などを議論する機会としたい、また観測的研究と数値モデル計算研究についても同様に知見や必要な研究領域の認識を共有し、新しい研究の枠組みを作る機会としたい。なお、講演は招待講演を中心に実施する。

コンビーナー：小池真（東京大学大学院理学系研究科）、竹川暢之（東京大学先端科学技術研究センター）、竹村俊彦（九州大学応用力学研究所）

9. 「第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)による全球水循環観測」

趣旨：第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)搭載の高性能マイクロ波放射計2(AMSR2)は、2012年5月に打ち上げられた後、7月3日からA-Train軌道からの観測を開始しました。AMSR2は、NASAのAqua衛星に搭載されていたAMSR-Eの後継センサであり、大気・海洋・雪氷・陸域のさまざまな水に関する物理量を継続して観測します。本分科会では、2013年5月に予定されているAMSR2データの一般公開に向けて、これまでに得られた成果を俯瞰し、気候研究における今後の利用可能性について議論します。

コンビーナー：青梨和正（気象研究所）、沖大幹（東京大学）、可知美佐子（JAXA）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンピーナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2013s@netsoc.jp）へ申し込んで下さい。

申込期限：2013年2月5日（火）

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都渋谷区桜ヶ丘 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

http://www.poppins.co.jp/nursery/room/index.html#hibuya_ku

利用可能時間：10:00～20:00

（営業時間外受付：8:00～10:00／20:00～23:00）

アクセス：渋谷駅から徒歩5分

利用料金：2,625円/1時間（最低2時間；30分単位）※営業時間外料金、延長料金については別途規定あり

持ち物：食事（幼児用ルームサービス可）、ミルク、

おやつ、おむつ、着替え、保護者の身分証明書

予約方法：上記施設へ直接お申込みください。ただし、最大受入人数は10名となっておりますので、早めのご予約をお勧め致します。

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設以外の保育施設を利用される方も、この対象になります。保育施設を利用される方は下記までご連絡ください。

連絡先：阿部 彩子、田中 智子（大気海洋研究所）

Email：kisho-2013@aori.u-tokyo.ac.jp

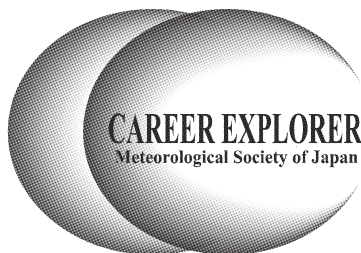
TEL：04-7136-4406, 04-7136-4371

IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。(同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。)

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさで挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの試験的導入について

日本気象学会は、若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、2011年度春季大会から大会会場にてリクルートブースを試験的に導入しております。これは、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が、広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするために、申し出のあった企業の就職担当者に会場に来て頂き、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供する試みです。参加予約等の手続は不要です。

ブースはポスター会場に併設する予定で、原則として毎日コアタイム（ポスター発表時間・昼休み）にのみ、企業側担当者が対応します。また、展示を行なう企業のうち予め届出のあった企業についても、展示ブース（ポスター会場に併設）にリクルートブースの併設を許可します。この場合、コアタイム以外の対応も可能です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。